

名残惜しい6年生とのお別れ

7日に、児童会を引き継いだ5年生が中心になり、**6年生を送る会**を開いてくれました。それぞれの学年では、6年生に感謝の気持ちを届ける出し物（発表）を用意してこの日に臨みました。

.....

<各学年の発表>

- 1年生 肩たたきと金メダルをプレゼントしました
 - 2年生 「よっちょれ」と思わせての「キツネダンス」を踊りました
 - 3年生 「川西全力応援団」になり、6年生にエールを送りました
 - 4年生 フラッグ運動で、6年生に応援と感謝の気持ちを届けました
 - 5年生 思い出の写真とメッセージの発表、それにくす玉割を準備してくれました
-

この様子はケーブルテレビのニュースで放映していただきましたので、ご覧いただいた方もいらっしゃるでしょう。

1年生は今年の算数の勉強で「100まで数えられるようになった」ことを活かし、ペアでいつも遊んでくれた**6年生の肩を100回たたきました**。肩こりするにはまだ早い6年生ですが、1年生の思いがやはりうれしいようで、「ありがとうね」と声をかけていました。

5年生が用意してくれたくす玉を6年生の代表と担任とで割るシーンでは、ハプニングが発生しました。割ろうとしたときに、**くす玉についていたひもがとれてしまった**のです。何度も予行演習して準備してきただけに、くす玉係の子は残念に思ったことでしょう。でも、この場面で私は、『**くす玉がそのまま割れなかったらいいのに。そうすれば6年生はまだ卒業できないから、もっ**



と一緒になれる…」と思いました。そして、校長に与えられたお話をする場面で、そんな思いを伝えました。

6年生は卒業式の歌を披露してくれました。会場全体がそのきれいな声に聴き入り、「さすが6年生だな」「私たちもあんな6年生になりたいな」と思ったようです。

しかし6年生の発表はこれで終わらず、**在校生に向けたエール**をアントニオ猪木さんの「闘魂注入」で贈ってくれました。熱い思いをありがとう。

4年ぶりに体育館に参集してこの会を開くことができました。温かい思いにあふれた素敵な時間を全校で共有でき、幸せな気持ちになりました。

.....

<その後の話>

低学年担当の先生とお話をした際、私が話した「くす玉がこのまま割れなかったらいいのに。そうすれば6年生はまだ卒業できないでしょ。そうなればもっと一緒になれるのにね。」という話に感動してくださったとのこと。6年生の姿のすばらしさを実感し、もっとこの学校にいてほしいという思いに共感できるとのことでした。

しかし、さらにおっしゃるには、低学年の子は「くす玉が割れない方がいい」「6年生が卒業できないといい」と校長が思っている?! とストレートに感じた子もいるらしく、「こういう話を受け止めるのは、難しいことなんですね。」とおっしゃっていました。(しっかりフォローしていただき、ありがとうございました)

低学年では汲み取れない思いも、6年かけて成長する中で感じ取ることができるようになりますし、また、感じ取れる子に育てたいとも思います。

立派に成長した6年生がいよいよ16日に巣立ちます。残り数日ですが、しっかり準備をし、全校のみんなで心をこめて送りたいと思います。

